

「新たな一歩」イメージ

白石倉庫 看板リニューアル 大震災10年

【宮城】「一歩前へ一歩未来へ Reborn 仙台港」。白石倉庫（太宰栄一社長、宮城県白石市）は東日本大震災発生からちょうど10年となった11日、新たな復興への願いを込めた。メッセージ入りの看板を仙台港営業所前に掲げた。大震災が発生した2011年、同営業所が立地する仙台港エリアは地震や津波による甚大な被害を受けた。こうした状況を踏まえて、強い気持ちで復興を成し遂げるため、同年7月に営業所前に「ガンバろう！東北 頑張ろう！！仙台港 東北人魂」のメッセージとともに、支援の手を差し伸べてくれた同業の仲間や取

看板の前でガッツポーズをする太宰社長（左から10人目）ら



一翼も担ってきた。あれから10年……。復興がある程度進んだことを見据え、これまで頑張ってきた期間を経て新たな第一歩を踏み出すイメージにリニューアル。メッセージの文言は、社内で公募し、女性事務員が応募した一文が採用された。

引先などの名称を記した大型看板を設置。感謝の思いを込めるとともに、地域を応援して活気づける役割の

上げる一助になれば幸いです。とあいさつ。看板の前で「がっちり」の掛け声とガッツポーズで、記念撮影をした。（今松大）

21年3月11日の除幕式には、社員と関係者らが出席。太宰社長が「皆さんの努力のお陰で、ここにいることができる。改めて感謝申し上げます。大震災から10年経ったが、引き続きこの地で頑張っていく。今年には仙台港開港50周年でもあり、今後ますます復興のために尽力し、我々が新しい仙台港をつくり